

1996. 9. 7 No. 60



とシュデラングバン
会なくつなぐ手



また大きく近づいて友だちになれた

現地訪問に協力ありがとうございました

7月20日出発、8月5日全員無事に帰国しました。

ことしの訪問は7回目。毎年そうですが、ことしは特にお互いが大きく近づいて同じ人間として心から交わることができたと思

います。 Bangladesh と日本のナースが診療に村の家々の訪問に

仲よく仕事をし、教育班の若い人たちが授業

にさっと入ったり教室ごとのゲームで大さやぎ

したり。夜は一緒に星を見てうたって...

ことしは学校ごとに準備して下さったので、教

育の問題点がわかってよかったと思います。

今まで以上にシモンタニとの手紙のやりとりを

続けようと思っています。

ご協力ありがとうございました。小さなグループへも報告会をい

たしますのでも連絡下さい。

へ大木松子



巡回検診と母子保健センターの活躍

今年の現地訪問も無事終わりました。年ごとに、訪問する日本側スタッフと現地スタッフとの交流も深まってきているように感じました。また訪問団メンバー同士の意見交換も活発で、毎日がとても充実したものでした。また現地訪問を支えて下さった日本の皆さん、ありがとうございました。

心に残っているのは、村に入った翌日、ショングニ・シヨングスタの歓迎会の席上述べられた「私たちショングニ・シヨングスタのメンバーは、一人一人が『手をつなぐ会』の会員だと思っています。日本の会員の皆さんも、ショングニ・シヨングスタのメンバーだと思った支援して下さっていることでしょう。」という言葉でした。ショングニや村人にとっては、日本の私たちの活動は、生活の支え、心の支えそのものなのです。日本にいるとつい忘れがちになる、村の人々の願いや気持ち、心のつながりをもう一度思い起こさせられました。

医療班は、今年大きな二つの成果を見ることができました。看護婦による「巡回検診」と昨年完成した「母子保健センターの稼働」です。村での保健医療の改善運動は、母子保健センターを中心に進められています。ノルジヤマン医師たちの報告によると、この1年間で彼等は、センターを訪れる患者たちの治療および出産の介助、村人や学校での健康教育、スタッフの質の向上のためにピレツジドクターやTBA（村の産婆さんたち）への研修、それに村の全家庭を対象とした巡回検診などを行っていました。センターでの診療は、昨年日本から送られた医療器械を活用して行われます。10日ほど一緒に診療に携わって感じたのは、治療と予防、保健教育を平行して進めていくという彼等の考え方が着実に根をおろしつつある、ということでした。器械や設備の面での充実はまだですが、これにはまだ時間がかかりそうで、スタッフの充実、質の向上を平行させながら進めていく必要がある、ということでした。

一方、二人の日本人看護婦は、センターの3人の看護婦が毎日交代で出かける「巡回検診」についていきました。約2,300所帯、1万人の村を、毎日20~30軒歩いて一軒ずつ回るので、カンカンと照りつける暑さの中を、一軒一軒歩いて回っていいいな作業に、日本人看護婦は悲鳴を上げることもありましたが、それでも母子保健センターで生まれた赤ちゃんが元気に育っている姿を見ると、疲れも吹き飛ばすようでした。この巡回検診のおかげで、村人に安心して家庭での子育ての相談ができます。頼りになる看護婦たちのおかげで、母子保健センターやショングニに対する信頼も増す、という具合です。

問題はまだまだ山積しています。レントゲン装置を始めとしてセンターの設備の不足はいうまでもなく、地域の要望に答えるためにはスタッフもまだまだ不十分です。特にイスラムの国で、女性が男性に肌を見せないという慣習が生きている村では、お産に際して女性の産科医が必要だと思われます。救急患者や入院、手術患者に対応するためにももっと設備、人材が必要です。

医療や看護の質に関しても、たしかに現在のスタッフはがんばっていますが、国全体のレベルの問題もあり、まだまだ訓練や研修が必要なようです。彼等もそれを望んでいます。日本に招いての研修も必要ですが、バングラデシュ国内での研修や交流もこれからもっと望まれるでしょう。

(二ノ坂)

カラムディ村の教育～質の向上を目標に

教育班からの報告

今年現地訪問では、シヨンダニをはじめ、先生や子供、保護者、学校運営委員会の人々とゆっくり話す時間がありました。問題は大きく二つ。すなわち、

生徒の長期欠席と先生たちの質の問題です。

この数年間で、教育に対するカラムディ村の意識は大きく変わりました。それは、学校の数や生徒数を見ればはっきり分かります。10年前、小学校への就学率は3割だったのに今は8割を越えています。これは本当に喜ばしいことです。変わってないのは、先生たちの質と教育に対する彼等の取り組み。子供達は休んでいても、長期欠席しても子供の自宅を訪問したり、子供が学校に来るように働き掛けたりすることは以前と変わりません。就学率は伸びて、ほとんどの家庭から子供は学校に来るようになりました。ただ、長期欠席者の家庭背景を見ると、経済的に恵まれてない家庭の子供が多いのです。彼等は季節によって登校するので、irregular (=不規則) な生徒と呼ばれます。

現在では農業が機械化さて、収穫も伸びています。農業労働者の数も結果として足りなくなっています。そこで、地主たちは、子供であってもいい賃金で畑で働かせます。季節によってこの様な家庭の子供は、親と一緒に隣のインドに働きに出掛けることもあるそうです。仕事のないときに彼等は学校に行くのです。

親のほうから見ると、自分の子はどうせ、学校で勉強しても、国家公務員になるわけでもないし、医者になるわけでもない、精々小学校を卒業して親と同じ道(つまり他人の畑で労働者として働く)を歩かなければならない、もしそうであれば、今の暮らしをできるだけ優先させた方が良く、ということで子供の教育についてあきらめてしまいます。またクラスの生徒数も多いので、現実問題として先生たちは一人一人の生徒のことゆっくり考える余裕もないし、親との連絡も薄くなります。そこでシヨンダニは定期的に保護者会をしたり、生徒の家を直接訪問したりして欠席者の数をいかに減らすかを真剣に考えてます。

例年と違って、今年の訪問団は日本で特別な準備をして行かないで、学校の日常活動に参加させてもらいました。それぞれの学校の特色や先生たちの日頃の仕事内容が見えてきました。学校によって、生徒と先生の密接なコミュニケーションが見えたり、また、逆の関係が見えたり、官僚的な関係が見えたりしました。

それぞれの特技を見せるのに必死な子供も数多くいました。野外スポーツから室内ゲームまでいろいろ。なにか新しいものをすることによって、日本人に喜んでもらうことが彼等の目的ではなかったでしょうか。また自分の考えや意見を率直に言える子供もどんどん増えてきたような気がしました。

このように新しいものに挑戦する意欲があれば彼等の明るい将来はきっと切り開かれるでしょう。

(ラフマン)

現地訪問に初めて参加して

外池 博子

これまでアジアの国々で、ボランティアとして働いた経験がありましたが、それは私の今までの生き方に、影響を与える貴重な体験でした。福岡でNGOの活動をしたいと思っていた矢先に、「手をつなぐ会」との出会いがあり、現地訪問のメンバーに加えていただくことになりました。

私は教育班として、村の小・中学校を訪問しました。うだるような暑さの中、子供たちは楽しげに勉強していました。勉強したいという子供たちの願いを、両親たちは苦勞して支えています。長期欠席や中途退学、また教師のあり方など問題はありますが、シオンダニをはじめ、保護者と教師が話し合っていくことで、少しずつでも解決に向かっていってほしいと思います。カラムディ村には、生活の向上に目覚め、その目標に向かって力強く努力している、村人たちの姿がありました。そして私自身も、沢山の事を学びました。これから一人でも多くの方に、私たちが見て、聞いて、話し合ってきたことを、お伝えしていきたいと思っています。

初めての海外旅行がバングラデシュ、

という私が看護婦としてそこで見たことは？

左川 弘子

医者が足りない、ベッドが足りない、薬が足りない、……これがバングラのナースや医師たちから聞いた、共通の言葉であり、確かに私がカラムディ村やクシティア国立病院で見てきた現状である。国立病院の手術室で、エーテルをふりかけられ、声にならないあえぎ声をあげながら開腹手術を受けている姿を見て、胸をえぐられるような絶望感に襲われた。

しかし、子供たちのため、村人の健康のために毎日数十キロを歩いて巡回検診をするカラムディ村のナースの姿、また乏しい医療設備の病院や診療所で、懸命に働く医師たちの姿に、村を思い、国を思う、人間の心根を失っていない姿に触れたとき、言い知れぬ想いが湧き上がった。本来、人間の間には上下、差別などない、むしろ逆境の中で人間らしさを失わない、彼等の胸中にこそ人間の輝きがある、そんな想いを強くした、現地訪問だった。

8月18日(日) 「あいれふ」にて 午後1:30~4:30
最初の報告会がひらかれました。

今年の現地訪問団の最初の報告会は、まず大木代表のあいさつで始まりました。母子保健センターの様子、学校の子供たちの元気な姿、そしてショングニとの話し合い、等の報告でした。

次に記録ビデオの上映。まだ編集途中とのことでしたが、センターでの診療の様子、薬局が出来たこと、村の中に出かけていく巡回検診・相談、健康教室等現地の様子、中でも元気な赤ちゃん、体重測定している幼児の微笑ましい様子、ジャパニ小他の小、中学校、幼児学級の元気な子供たちの姿、そして6月から始まった識字教室の熱心な学習風景など、現地の様子がぼつちりと写されていました。約40分のビデオでした。

10分の休憩時間には**バングラ紅茶**で喉をうるおしました。

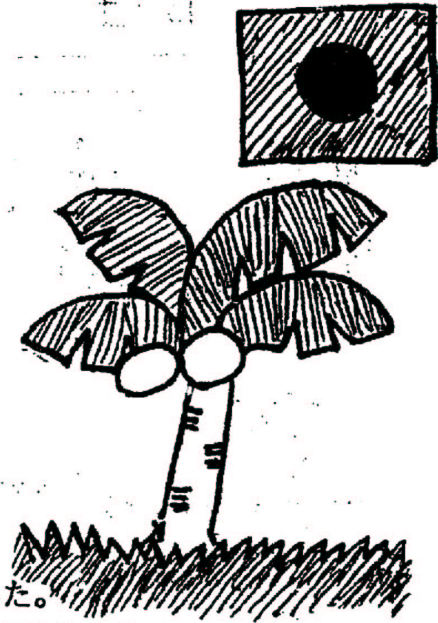
後半は、**医療班**の二ノ坂医師が、スライドを見ながらの報告。今年はノルジャマン医師、看護婦たちと協同で診療もスムーズに進みました。また、看護婦たちによる巡回検診の様子も見る事が出来ました。

次に**教育班**の若い男性二人、水上さんと大黒さんの報告。子供たちの様子、先生たちの質の問題等、そして子供たちとのサッカーの試合の話……ほのぼのとした話でした。

最後に約1時間の**質疑応答**が行われました。

「ビデオを見て、一年一年村がきれいになり、発展している様子がうれしい。」との発言があり、同感された方も多かったようです。「識字教室が出来て、大変にうれしい。みんなとても熱心に学んでおられるのを見て、感激しています。」と昨年訪問団の方からの話。「教育問題は難しいけど、これが基本だ。」というバングラデシュからの留学生の発言。またNGOの援助について、国際交流とは、等非常に活発な討論となりました。

40人の参加があり、意義深い報告会となりました。今後の報告会にもたくさんの人にご出席いただき、バングラデシュとの交流を発展させていきたいと思ひます。 (瀬良)



報告会の出前 いたします

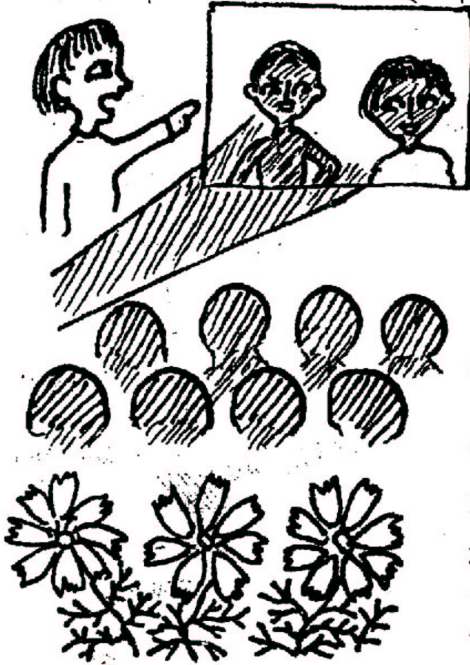
今年も現地訪問の報告会をいたします。会員の皆様、お知り合いの方、地域や職場などで現地のお話を聞いてみたい、という方がおられましたら、ご連絡ください。訪問団のメンバーが出向いて報告を行います。もちろん無料ですし、小人数でも出かけます。

他にも、現地訪問のときのスライドや写真集、ビデオも用意しています。

10月初めには、現在編集中の報告書も完成予定です。ご利用ください。

「バングラデシュと手をつなぐ会」報告会&交流会

10月12日(土) 12時 「あいれふ」へ 出かけよう!



この会も発足後9年目を迎えました。現地訪問は回を重ねること6回、そして招聘事業は今年2回目を迎えます。

今年訪問した方々の報告のなかに、とてもうれしいことがありました。

おかあさん達の識字教室が村の中で、6月からスタートしたのです。まず自分の名前と住んでいる村の名前が書けるようになりつつあるとか。彼女達にとって、字が書けたり読めたりできるようになるということは、気持ちも豊かになり、希望が持て始め、仲間と力を合わせて生きていこうという勇気に繋がる事なのです。

そのように、日本の私たち手をつなぐ会のメンバー1人1人の気持ちが、カラムディ村で、また新たな息吹きを始めました。カラムディ村は遠いけど、少しずつ少しずつ近いものになりつつあります。

今年はカシム氏(シヨンダニ会長)とシャクティラニさん(母子保健センター看護婦)を迎えることが決まりました。

そこで、10月12日(土)午後、今年の現地訪問報告会と研修に来られたお2人から直接、現地の様子をうかがいます。2人にとって、当日会場に多くの方が集い、自分達の話しに耳を傾け、共感と理解を示してもらえたら、どんなにか勇気と活動エネルギーを奮いたたせることができるでしょう。

当日、時間を裂いて出かけてくださる方々の為に、シャヒダさん直伝のカレーの試食や、サリーの試着(カメラをお持ちください)もできるよう、準備してお待ちいたしております。ご家族皆さまで、またお友達をおさそいのうえ、ぜひたくさんでお出かけください。お待ちしております。

なお、カレーの試食は、会員の方は300円です。会員外の方は500円ですが、同封のチラシをお持ちの方は400円になります。ぜひご活用ください (宇治)

市民の立場でアジア開発銀行 (ADB) にかかわろう

来年5月福岡市 (ホテルシーホーク) で開かれる ADB 第30 回総会に市民の立場から積極的にかかわろうと、福岡の NGO のメンバーがこのほど「アジア開発銀行総会福岡 NGO フォーラム」を発足させました。このフォーラムは、ADB 福岡総会を福岡 PR のためのイベントに終わらせず、福岡とアジアの関係を学ぶ場にしようと、学習会を開きながら講演会や市民集会の準備に取り組んでいます。「バングラデシュと手をつなぐ会」からも、何人かがこのフォーラムに参加しています。次回は下記のとおり、勉強会を兼ねた実行委員会を予定しています。バングラデシュやアジア各国との関係をまた違った視点から考えるきっかけにしてみませんか? どなたでも参加頂けます。

記

日時: 1996 年9月10日 (火) 19:00~ (スライドを使用して ADB 総会を紹介)
場所: 「あいにふ」/福岡婦人会館【福岡市中央区舞鶴2-5】 ☎ 092-712-2662
(A 研修室) お問い合わせ: 今村 和彦まで (☎ 092-921-5845)

NGO福岡ネットワーク9月の定例会のお知らせです。

と き: 9月28日 (土) 午後2時~5時
ばしょ: アクロス福岡3F こくさいひろば 交流室A
テーマ: 各団体の夏の活動の報告や、11月に予定している
開発教育セミナーについてです。

国際ミズ・シンポジウム福岡 '96 「市民と国際協力」

と き: 9月15日 (日) 午後1時~4時30分
ばしょ: アクロス福岡7F 大会議室
二谷英明さんの講演「カンボジアにおけるボランティア活動」
シンポジウム「身近なことから始める国際協力~私たちに何
ができるか」
シンポジウムには、「バングラデシュと手をつなぐ会」から二ノ
坂さんが出席します。
参加費 1000円です。会員の方には優待券があります。
にのさかくりニックまでお問い合わせください。

お知らせとお願いコーナー

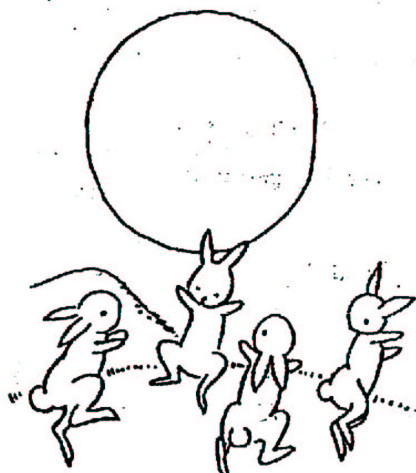
9月、10月の行事予定

(未定、変更される場合があります。ご確認ください。)

	時刻・時間	内 容	場 所
9月12日(木)	19:00~	運営委員会	事務所(西新)
10月7日(月)	?	カラムディ村からのお客様到着(歓迎会?)	
10月12日(土)	12:00~13:00 13:00~14:00 13:30~16:30	バングラデシュ報告会 ランチタイム サリー着付け 報告会	あいれふ 大研修室
10月17日(木)	19:00~	運営委員会	事務所(西新)
10月19日(土) 20日(日)	11:00~	長崎へ一泊旅行 送別会(予定)	長崎〇〇温泉 福岡にて(?)
10月21日(月)		お客様バングラデシュへ帰国	
11月(未定)	19:00~	運営委員会	事務所(西新)
11月23日(土)	13:00~	バザー 前日(22日)に 準備を行います。	西新商店街
12月21日(土) (~約1週間)		スタディーツアー 1週間の予定です。 ※子供同伴歓迎です。	バングラデシュ カラムディ村

お願い1 : 11月23日のバザーに向けて、手作り品、不用品(新しいもの)など拠出できるものがございましたら、ご連絡ください。(092-822-5795=留守電に連絡先を入れてください。または872-1136にのさかクリニックへ)

お願い2 : また、事務所備品として、テレビ、ビデオ、本箱を求めています。ご家庭で不用品がございましたら、事務所へ寄贈をお願いします。



バングラデシュと手をつなく会

814 福岡市早良区西新5-4-20

TEL&FAX 092-822-5795

代表 大木 松子

郵便振込 01720-2-10442

加入者名 バングラデシュと手をつなく会

御協力ありがとうございます。

1. 募金・旅費カンパ (個人以外の方) (敬称略)

宗像ロータリー 100,000円
 福岡トヨタ労働組合 271,734円
 城南病院 20,000円
 しのめ共同作業所 5,000円

2. 新入会員紹介

手柴 さと子、 細川 良枝、 松尾 恵子、
 望月 賢一郎、 島田 耕治、 左近 節子、
 青木 妙伊子、 百野 勇、 木下 伸生、

会計報告

1996. 8. 20現在

収入	
会員会費	266,500
協力会員会費	401,000
募 金	813,162
旅費カンパ	905,500
その他	292,698
計	2,678,860
前年度繰越金	3,637,901
収入合計	6,316,761円
支出合計	1,320,013円
繰越金	4,996,748円

[現地訪問経費]

旅 費	420,000
保 険 料	25,110
現地移動、おみやげ 紅茶などの仕入れ仮払い	150,000
ビデオ、写真、スリッパ	54,259
雑 費	278
合 計	649,647円

《お願い》

会員・協力会員の方、お知らせを入れてますので、本年度の分よろしくお願ひします。
 募金 (任意で金額自由) は目標にまだまだです。さらにご協力お願ひします。

中華人民共和國政府

(1954年) 財政部 財政部

財政部 財政部

財政部 財政部

財政部 財政部

財政部 財政部

財政部 財政部

財政部 財政部

財政部 財政部

財政部 財政部

財政部 財政部

財政部 財政部

財政部 財政部

002,885	獎金獎金
000,000	獎金獎金
501,000	獎金獎金
000,000	獎金獎金
800,000	獎金獎金
100,000.0	獎金獎金
000,000.0	獎金獎金
000,000.0	獎金獎金

財政部 財政部

【Bangladeshと手をつなぐ会主催】

Bangladeshからおふたりのお客様を迎えて

Bangladeshと手をつなぐ会帰国報告会

「Bangladeshと手をつなぐ会」では、今年も7月20日から8月2日まで、Bangladesh・カラムディ村に行ってきました。スタッフは8人。昨年完成し、現地の医師と看護婦で運営が始まった、「母子保健センター」での診療活動を中心に、看護婦が村中を回る「巡回健診」などに協力して来ました。また、小学校や中学校を回って、子供たちとの交流や先生方との話し合いも行いました。

今年の活動のご報告を下記のように予定しています。また、カラムディ村からおふたりの方をお招きして、彼らから見た日本との交流についてもいろいろと伺いたいと思っています。昼食はBangladeshカレーと紅茶をお楽しみ下さい。さらにサリーの着付け教室もあります。ぜひ、皆さんお誘い合わせで、秋の1日、Bangladesh・カラムディ村の雰囲気におまれてみませんか？

とき：1996年10月12日（土）

ばしょ：「あいにふ」/福岡婦人会館【福岡市中央区舞鶴2-5】☎092-712-2662
スケジュール

12:00～13:30 調理実習室にて**ランチタイム** Bangladeshカレーをご用意しています。

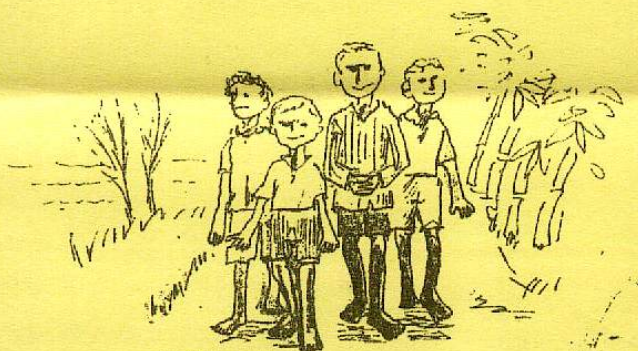
ねだん1食500円※ただしこのチラシをお持ちの方は400円です。

13:00～14:00 大研修室でサリーの着付け教室を行います。サリーはこちらでをご用意します。どなたでもご参加下さい。参加無料

その他、Bangladeshの展示が盛りだくさんです。

14:00～16:30 1996年度現地訪問報告会【大研修室】参加無料

ビデオやスライドを使って今年の活動をご報告します。またカラムディ村のNGO「シヨンドニ・シヨンスタ」のリーダーであるカシエム氏と看護婦のシャクティラニ氏のおふたりによるショートトークもあります。



このチラシをお持ちの方は、
Bangladeshカレー+紅茶のランチ
500円のところを **なんと**
400円にプライスタウンします
ぜひこのチラシを捨てずに、会場まで
お持ち下さい。

お問い合わせ：にのさかクリニック☎092-872-1136 までお願いします。